

賃金の増加幅が物価上昇幅より 大きいのはわずか6%台

第47回『勤労者の仕事と暮らしについてのアンケート（勤労者短観）』 調査結果の概要（首都圏・関西圏版）

本稿では、2024年4月初旬に実施した「第47回勤労者短観調査（勤労者の仕事と暮らしについてのアンケート）」の首都圏・関西圏版の分析結果概要を報告します。

詳しくは連合総研ホームページ(<https://www.rengo-soken.or.jp>)または、報告書をご覧ください。

調査実施要項

- 1. 調査対象:** 首都圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）ならびに関西圏（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）に居住する20～64歳の民間企業に雇用されている人を対象に、2,000名の回答を得られるよう、株式会社インテージリサーチのアンケートモニター登録者へ調査票を無作為に配信した。
- 2. 調査期間:** 2024年4月1日～8日
- 3. 調査方法:** WEB画面上での個別記入方式（㈱インテージリサーチに調査作業を委託）

調査結果の ポイント

I 勤労者の生活と仕事に関する意識

- ◆賃金の増加幅が物価上昇幅より大きいと回答した割合が6%台にとどまる
- ◆賃金収入は正社員・非正社員ともに改善傾向が続く

II 最近の家計の経済状況

- ◆主生計支持者の非正社員は、男女とも<赤字>の割合が正社員に比べて高く、男女間の差も拡大
- ◆1年前と比べた世帯収入は改善し、プラスに転じる

III 中期見通しに関する意識

- ◆3年後の物価は「かなり上がる」が増加し3割台に乗る
- ◆自身の5年後の賃金が<高くなる>とする人は増加

IV 人手不足感とストレスの状況

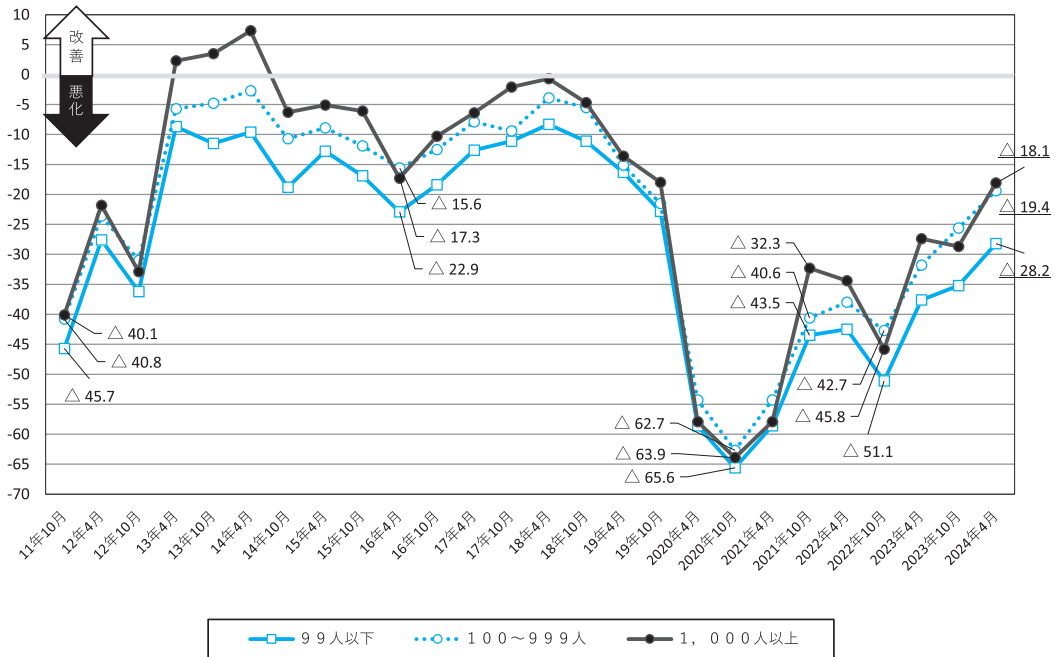
- ◆職場の人手不足感は4割以上、建設業では過半数
- ◆業務の繁忙によるストレスが増えた人は約4割

I 勤労者の生活と仕事に関する意識

◆景気、物価に対する意識

1年前と比べた景気認識は、改善傾向にあるが、従業員規模間で格差が生じている（QR2）

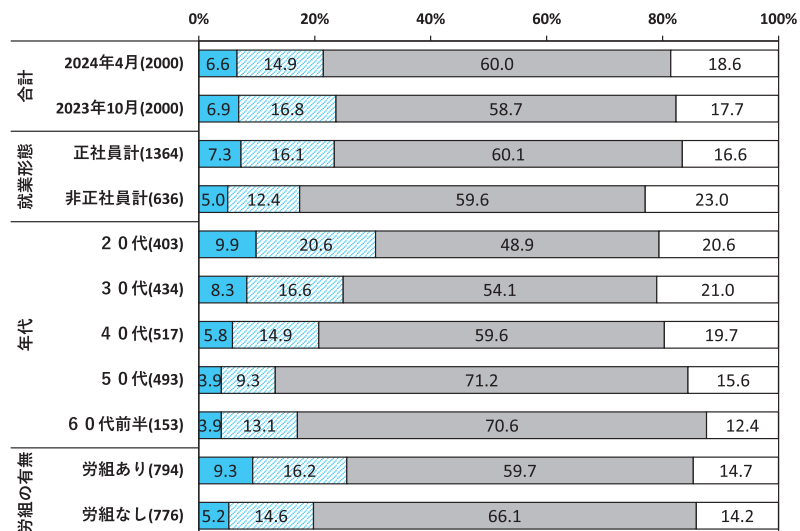
図表1 1年前と比べた景気認識（従業員規模別、D.I.）



(注) D.I.={「かなり良くなった」×1+「やや良くなった」×0.5+「変わらない」×0+「やや悪くなった」×(-0.5) + 「かなり悪くなった」×(-1)} ÷ 回答数（「わからない」を除く）×100

全体では、賃金の増加幅が物価上昇幅より大きいと回答した割合が6%台にとどまる（QR17）

図表2 1年前と比較した賃金収入の変動幅と物価上昇幅の差（就業形態・年代・労組の有無別）



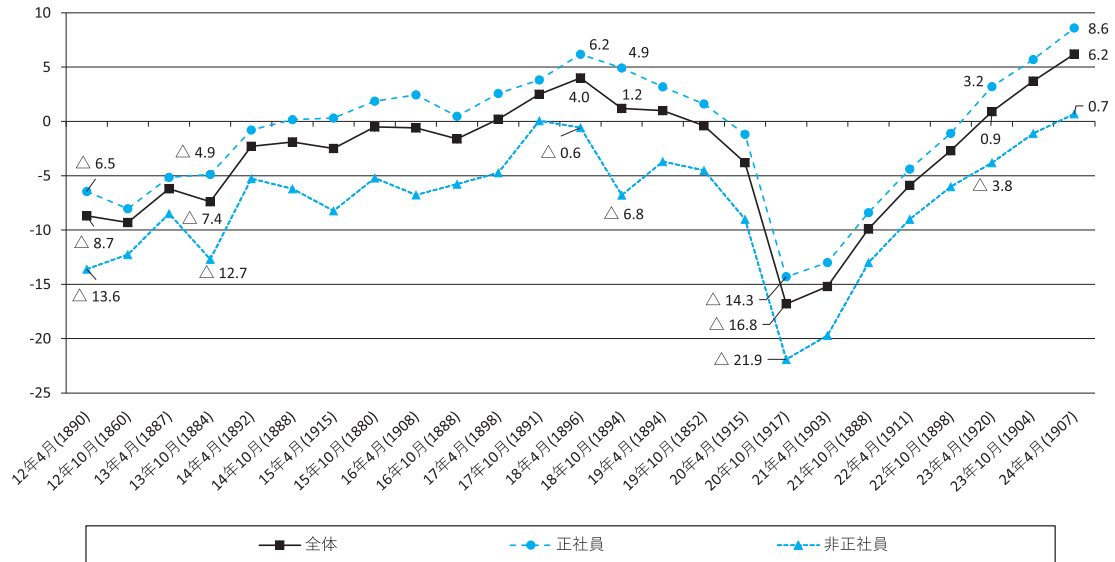
■ 賃金収入の変動幅は、物価上昇より大きい（賃金の増加幅 > 物価上昇幅）
 ■ 賃金収入の変動幅は、物価上昇とほぼ同程度（賃金の増加幅 ≈ 物価上昇幅）
 □ 賃金収入の変動幅は、物価上昇より小さい（賃金の増加幅 < 物価上昇幅）
 □ わからない

(注) () 内は、回答者数 (N)

◆勤め先と仕事に関する意識

1年前と比べた賃金収入の増減D.I.は、正社員・非正社員ともに7期連続の改善となった。非正社員のD.I.はプラスに転じたが、正社員との差は拡大している (QR9)

図表3 1年前と比べた自身の賃金収入の増減 (D.I.)



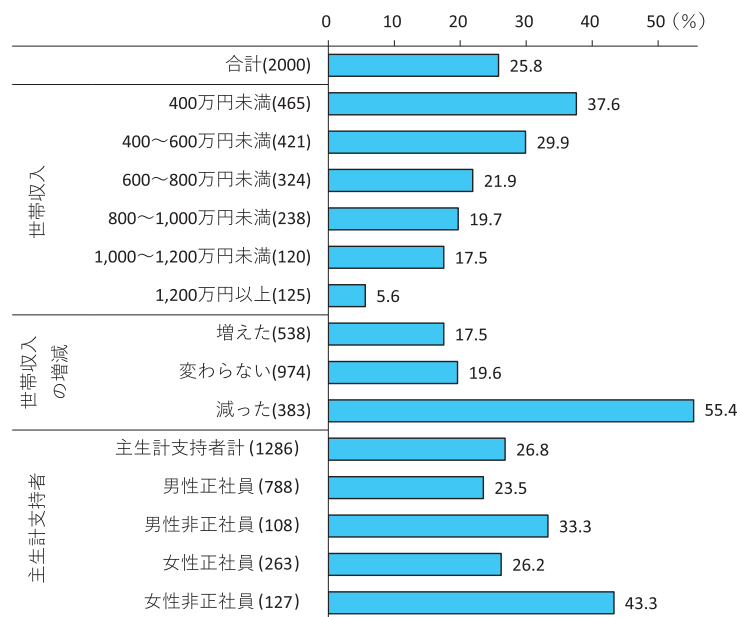
(注1) QR1で1年前の就業状況が「働いていなかった」「わからない」「不明」とした回答者を除いて集計
 (注2) D.I.=「かなり増えた」×1+「やや増えた」×0.5+「変わらない」×0+「やや減った」×(-0.5)+「かなり減った」×(-1)÷回答数(「わからない」を除く)×100

II 最近の家計の経済状況

◆家計の収支・貯蓄動向

非正社員の男女間の<赤字>の差が拡大 (QT1、QR11)

図表4 過去1年間の世帯収支が<赤字>の割合

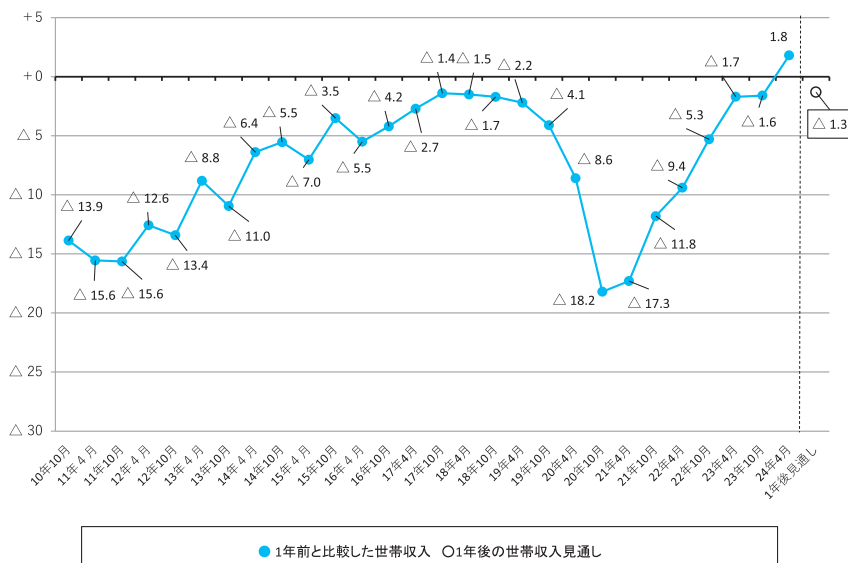


(注1) () 内は、回答者数 (N)
 (注2) 世帯収入の増減について、<増えた>=「かなり増えた」+「やや増えた」、
 <減った>=「かなり減った」+「やや減った」

◆世帯収入と家計消費

世帯収入D.I.値はプラスに改善、1年後見通しは依然マイナスだが上昇(QR11、QR12)

図表5 過去1年間と1年後の世帯収入増減(D.I.)



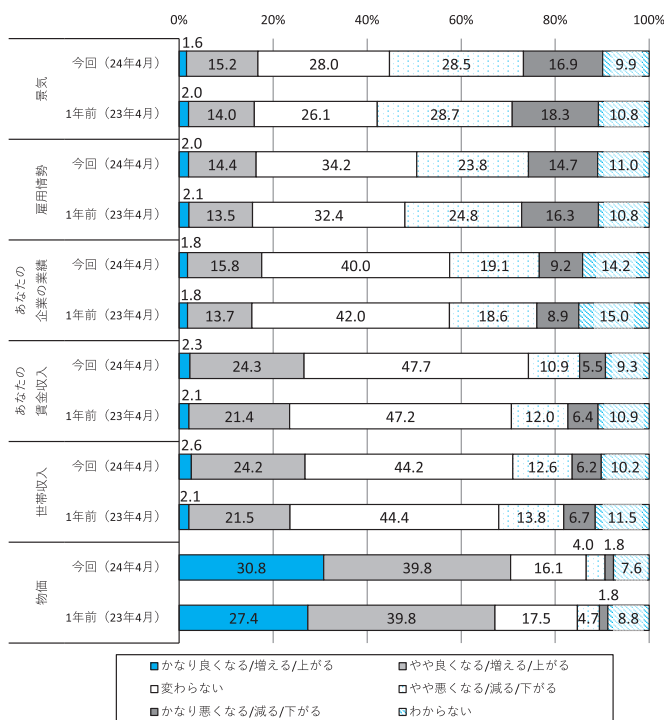
(注1) D.I.={「かなり増えた」×1+「やや増えた」×0.5+「変わらない」×0+「やや減った」×(-0.5)+「かなり減った」×(-1)} ÷回答数(「わからない」「無回答(第20回調査まで)」「不明(第21回調査)」除く)×100
 (注2) 第21回調査(2011年4月)以降の調査対象は20～64歳、第20回調査(2010年10月)以前は20～59歳である

Ⅲ 中期見通しに関する意識

◆中期的な経済等の状況の見通し

3年後の物価、「かなり上がる」が3割台に増加、物価以外の項目は昨年に引き続いて改善傾向となっている(QT6、QT7)

図表6 現在と比べた3年後の経済の状況(20～54歳)

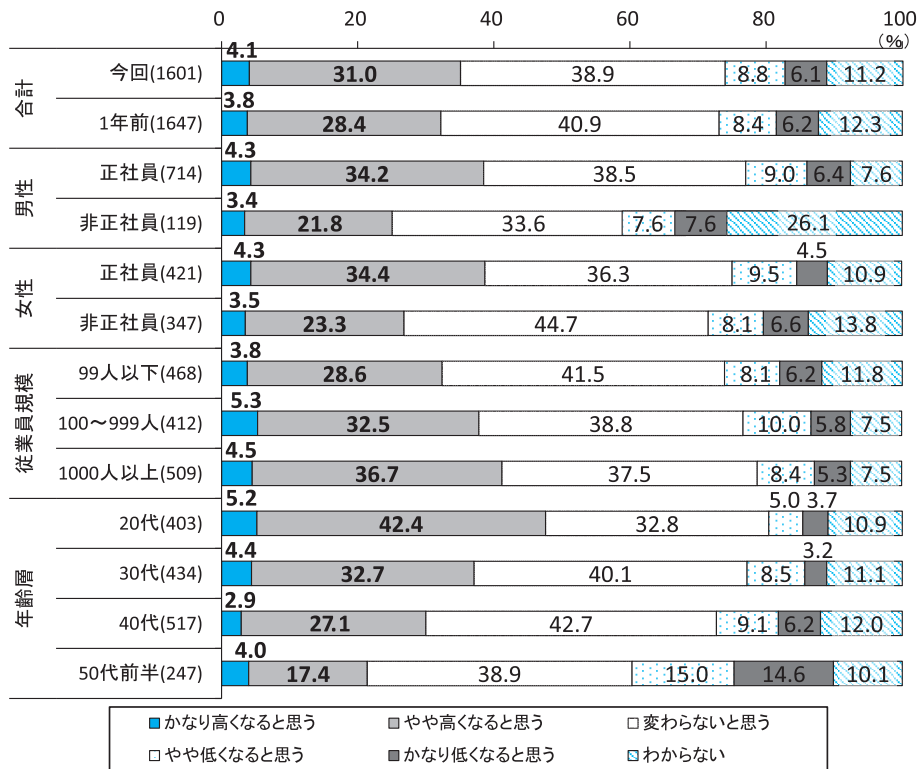


(注1) <増える>=「かなり増える」+「やや増える」、
 <減る>=「かなり減る」+「やや減る」、
 <良くなる>=「かなり良くなる」+「やや良くなる」、
 <悪くなる>=「かなり悪くなる」+「やや悪くなる」、
 <上がる>=「かなり上がる」+「やや上がる」、
 <下がる>=「かなり下がる」+「やや下がる」
 (注2) 今回調査：N=1601 1年前：N=1647

◆中期的な賃金に対する見方

自身の5年後の賃金が<高くなる>と回答した人は増加 (QT8)

図表7 自身の5年後の賃金見通し (20～54歳、属性別)



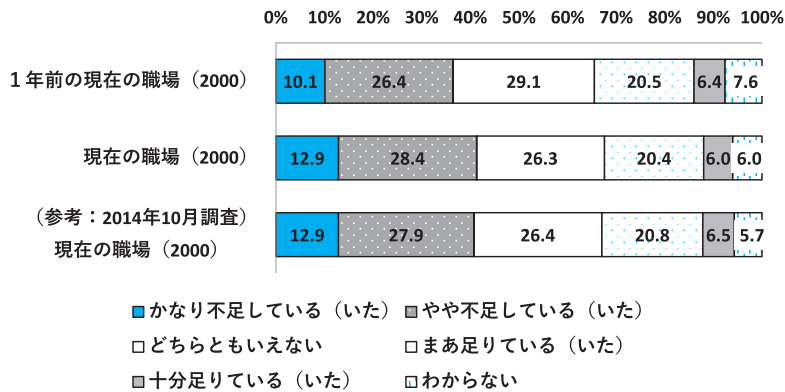
(注1) () 内は、回答者数 (N)
 (注2) 5年後の賃金は現在と比べて<高くなる>=「かなり高くなると思う」+「やや高くなると思う」、
 <低くなる>=「やや低くなると思う」+「かなり低くなると思う」

IV 人手不足感とストレスの状況

◆人手不足についての勤労者の認識

現在の職場の人手が<不足している>と感じている人の割合は、4割以上 (41.3%)。
 1年前の職場について人手不足を感じていた割合よりも高い (QT11、QT12)

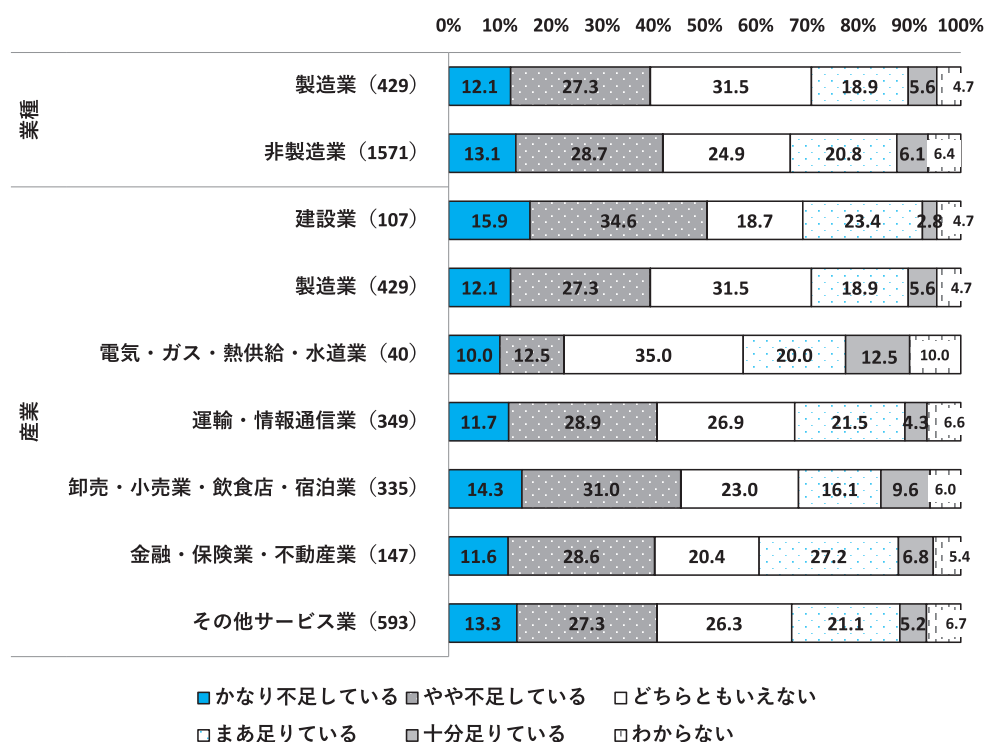
図表8 職場の人手過不足感の推移



(注1) () 内は、回答者数 (N)
 (注2) 職場の人手過不足感とは、職場の従業員数が仕事量に比べて足りているか、不足しているかのこと

産業別にみると、建設業、卸売・小売業・飲食店・宿泊業で人手不足を感じている割合が高い (QT12)

図表9 業種・産業別にみた職場の人手過不足感



(注1) () 内は、回答者数 (N)

(注2) 職場の人手過不足感とは、職場の従業員数が仕事量に比べて足りているか、不足しているかのこと

産業別に職場の状況をみると、建設業では、「求人しても応募がない」「業務を熟知している従業員の退職が多い」割合が高い (QT13)

図表10 産業別にみた職場の状況 (「当てはまる」の回答割合)

| | 求人しても応募がない | 会社が人員補充しない | 業務を熟知している従業員の退職が多い | 非効率な業務運営を行っている | 職場で残業を減らす取り組みをしている |
|---------------------|------------|------------|--------------------|----------------|--------------------|
| 建設業(107) | 46.7 | 35.5 | 40.2 | 35.5 | 40.2 |
| 製造業(429) | 36.1 | 39.0 | 38.5 | 39.6 | 45.3 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業(40) | 42.5 | 30.0 | 37.5 | 37.5 | 45.0 |
| 運輸・情報通信業(349) | 32.6 | 32.4 | 37.2 | 34.4 | 39.2 |
| 卸売・小売業・飲食店・宿泊業(335) | 43.9 | 41.8 | 37.6 | 40.3 | 38.5 |
| 金融・保険業・不動産業(147) | 26.5 | 30.6 | 36.1 | 41.5 | 42.8 |
| その他サービス業(593) | 45.5 | 36.6 | 39.1 | 34.9 | 38.1 |

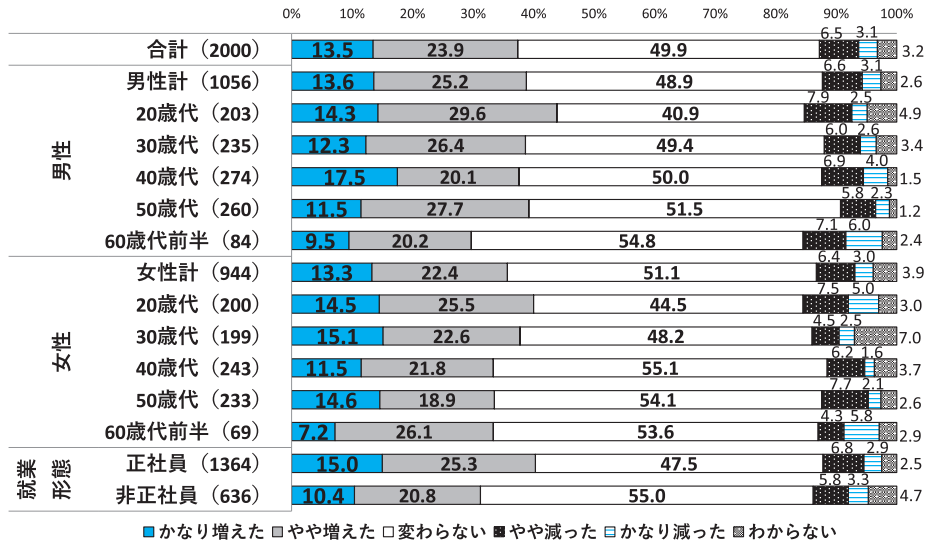
(注1) () 内は回答者数 (N)

(注2) <当てはまる> = 「当てはまる」 + 「どちらかという当てはまる」

◆業務の繁忙によるストレスの状況

業務の繁忙によるストレスが1年前と比べて<増えた>人は約4割。とくに、男女とも20歳代でストレスが<増えた>と回答した割合が、他の年代よりも高い(QT14)

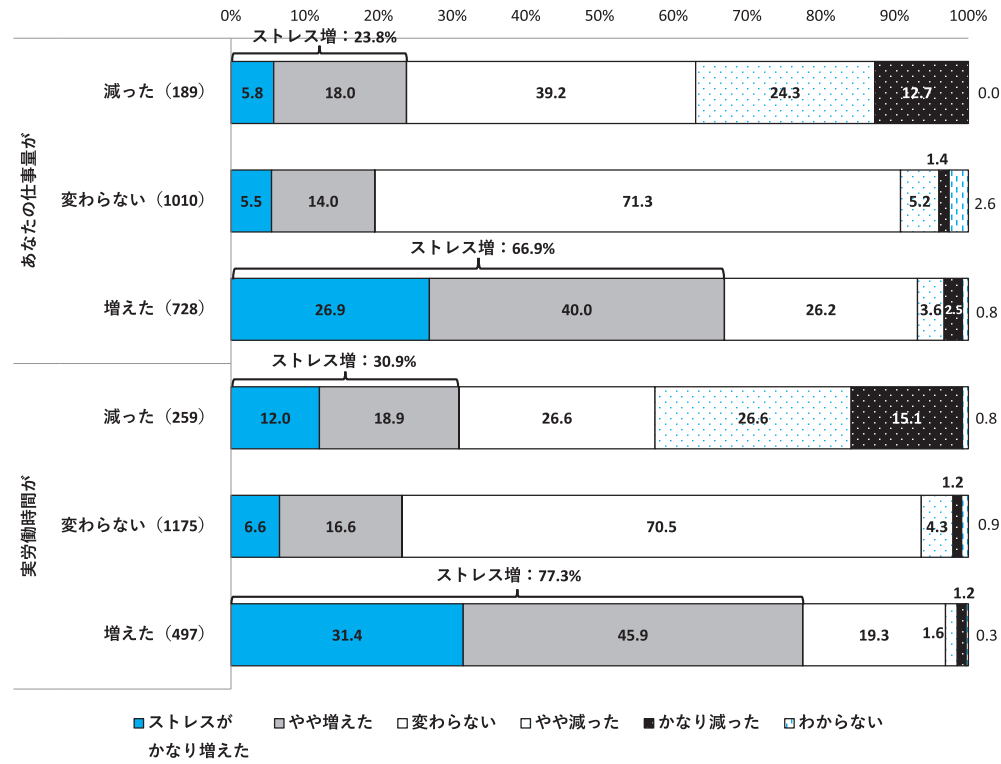
図表11 1年前と比べた業務の繁忙によるストレスの増減



(注1) () 内は回答者数 (N)
 (注2) 業務の繁忙によるストレスが<増えた>は、「かなり増えた」と「やや増えた」の合計である
 (以下図表12も同様)

仕事量、実労働時間が増えると、ストレスは増加する傾向(QT14、QT10、QR7)

図表12 仕事量の増減と実労働時間(残業・休日出勤を含む)増減別にみた1年前と比べた業務の繁忙によるストレスの増減



(注) () 内は回答者数 (N)